

第4章

中学3年生

渡辺 武志・斉藤 瞳・澤井 祐哉
大矢 美香・鈴木 善晴

(1) 目的

テーマ「国際理解と平和 ―過去を学び被害、加害のそれぞれの立場で考える―」

前年度の総合人間科は、テーマ「生命と環境」に基づき、生命とそれを取り巻く環境について、さまざまな視点で個人研究に取り組み、生命の大切さを学んだ。

今年度は、「国際理解と平和」というテーマのもと、その生命が脅かされることなく維持されるために不可欠な、平和の大切さについて考える。中2と違い内容が限定されるため、我々はある程度学習する必要もある。その際、自分とその周りだけに範囲を限るのではなく、世界的な視点・歴史的な視点を持つようにする。

(2) 実施方法

- 1) 初めに、遠足では杉原千畝記念館などを訪れるなど、個人テーマの設定に力を入れた。
- 2) 個人テーマに基づいて原稿をまとめた。
- 3) 後半は11月に行われる研究旅行でのF.Wを通じてグループ学習を行った。
- 4) グループ学習に基づいて原稿をまとめ、研究集録を作成する。

(3) 内容

- ・平和について考える。

平和のために何が必要か考える。平和な世の中を生きる生徒は、どのような考えを持っているか、ダイヤモンドランキング等で分類する。

- ・戦争の歴史について学ぶ。

個人でテーマを設定し、調べ学習を行う。現在、日本は平和であるが、かつては戦争が起こった国であり、戦争や戦後を経て、現在の日本がある。戦争をしていた日本と平和な日本を切り離すことはできない。過去があって、その延長に未来がある。言い換えると、私たちが生きる現在も、未来へと繋がっていくことになる。未来の元となる現在を創るために、過去を学ぶことは必要である。

- ・仮説を立て、検証し、考察する

個人の学習で抱いた興味を発展させ、グループで仮説を立て、フィールドワークや調べ学習を通じて、戦争・平和についての仮説を検証する。個人でできることは限られるが、グループで取り組むことにより、新たな着想を得たり、問題を発展させたりした。その結果から平和と国際理解の問題を考察し、自分の考えを深める。

平成27年度 中学3年生総合人間科実施計画

回	授業内容 (予定)
1	ガイダンス
2	ダイヤモンドランキング「戦争」をなくすための9つの方法
3	戦争体験者 語り手によるお話 (遠足までに 杉原千畝に関するビデオ視聴?)
4	12日遠足 (千畝記念館 リトルワールド) 事前学習 平和に関する考察→テーマ設定
5	事前学習 平和に関する考察→テーマ設定
6	個人研究発表会 (班ごと5班→各代表一名→代表発表 研究集録 (個人編) 作成準備 A41枚 夏休み (国際理解・平和に関するレポート宿題)
7	夏休み課題発表会 (各グループ内) 研究集録 (個人編) 完成
8	研究旅行 (広島市内・大久野島)・グループ編成 テーマ設定 グループテーマ決定、
9	FW候補地の検討、アポ取り準備
10	FW候補地のアポ取り開始 千羽鶴作成 開始 事前学習発表会準備、依頼状作成、 事前学習発表会、アポ取り完了、質問事項の確認、
11	研究旅行 FW、被爆証言者講話、広島平和記念資料館見学、毒ガス資料館 (大久野島) お礼状送付、検証作業とグループ考察、FW研究発表準備
12	お礼状送付、検証作業とグループ考察、集録原稿執筆、グループ研究発表準備、
13	グループ研究発表会準備、集録原稿下書き完成
14	グループ研究発表会
15	FW研究発表会
16	まとめ

(4) 検証評価

平成27年度については“総人を振り返って”をタイトルに、中学3年生に対してアンケートを行った。アンケートでは 前期の個人テーマで考えたこと、後期のグループテーマで考えたこと、3年間の総合人間科で学んだことについて、どんなことを学んだか。などについて、それぞれ、記述式で行った。

個人テーマでは、“最貧国の人たちを支えるIDA”について調べた生徒は、1日1ドル未満で生活している人たちのために私にできることは何か。募金、支援の大切さを周りの人たちにつたえるにはどのようにすればよいかという意見があった。

グループテーマではフィールドワークを研究旅行中の広島で実施されたが、いろいろな意見が出てくる中で共通点、異なる点を見つけることによって、バラバラだった意見を1つにまとめていくことの大切さを学んだようであった。

3年間の学んだことについては、自ら興味のあることについて調べ、その問題について深く考える大切さ。相手に分かりやすく発表するために、どのようにまとめ、話せばいいのか。他の仲間の発表、集録を見て感心することが多かった。自分にもたくさん取り入れたと思った。など、さまざまな意見を持っていた。いずれにしても前向きに能動的な学習が行われたことは有益であった。

(文責 渡辺武志)